

研究課題名：在宅がん患者の栄養サポートに精通した在宅医療福祉従事者の全国的育成システムの開発

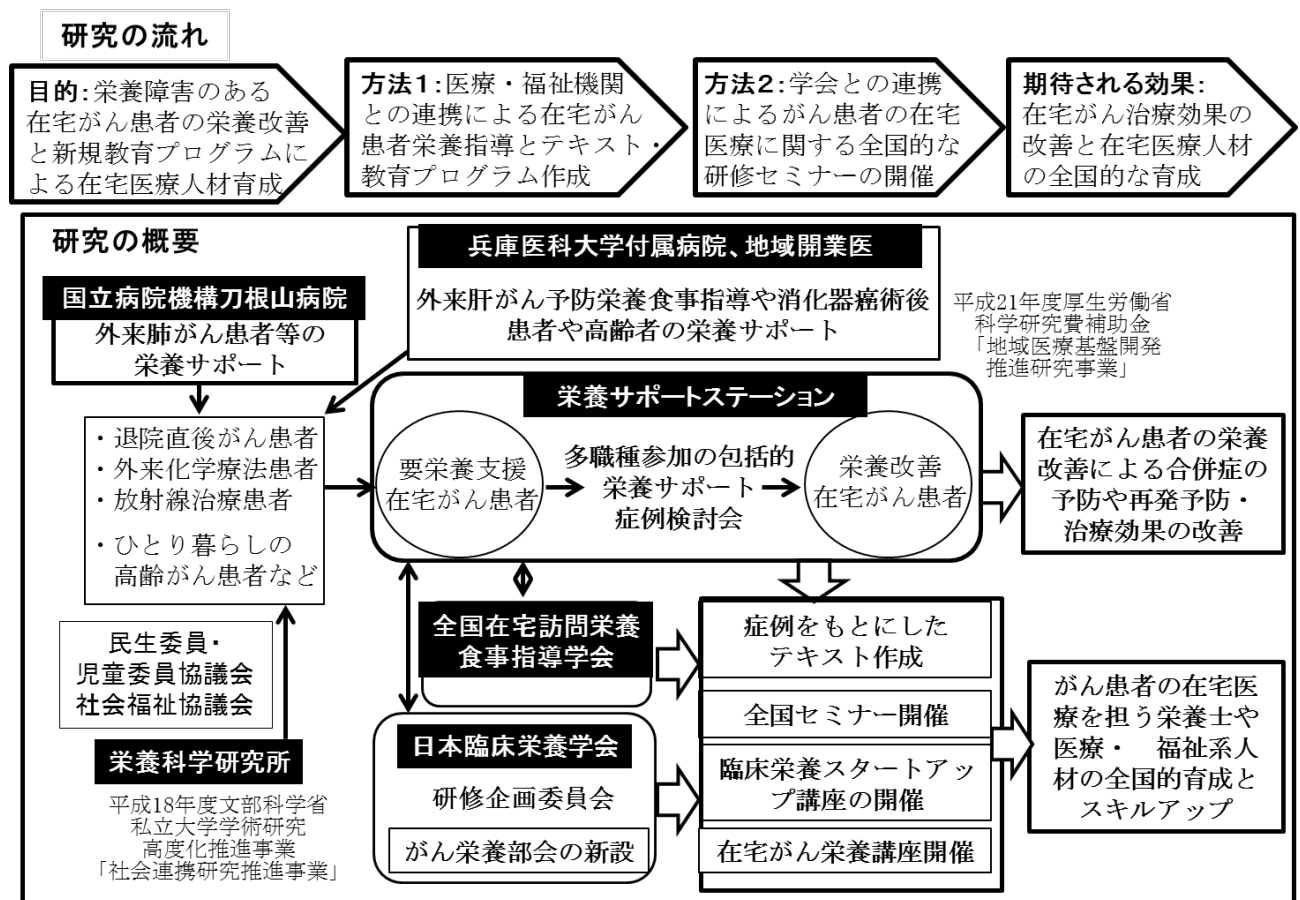
課題番号：H26—がん政策—一般—010

研究代表者：武庫川女子大学 教授 福尾恵介

1. 本年度の研究成果

がん患者では、栄養障害が高率に起こるが、年々がん患者数が増加し、早期退院・在宅医療が推進されるため、地域では栄養サポートが必要な在宅がん患者が急増している。この結果、在宅がん患者の合併症併発による入院や要支援者が増加するため、医療歳費の増加や在宅医療人材不足が危惧される。そこで、在宅がん患者に対する栄養サポート体制の構築と在宅医療人材の育成が緊急の課題である。

本研究は、これらの課題解決を目的として、在宅がん患者に対する総合的な栄養サポートシステムを構築するとともに、「症例をもとにしたテキスト作成」、「全国セミナーの開催」、研修医など若手医師を対象とした「臨床栄養スタートアップ講座」などを開催し、がん患者の在宅医療を担う人材の全国的な育成を行う（図）。



3年間の事業で、初年度の平成26年度は、国立病院機構刀根山病院、兵庫医科大学病院、日本臨床栄養学会、全国在宅訪問栄養食事指導学会と連携し、在宅がん患者の栄養サポートや教育テキスト・教育プログラムの開発と試行を行った。

(1) 在宅がん患者栄養サポートシステムの構築

- 1) 国立病院機構刀根山病院では、肺がん患者を対象として、新規採用の管理栄養士と学生が、在宅肺がん患者の食事調査や身体測定などを行い、特徴的な症例をテキスト作成用にまとめた。
- 2) 栄養サポートステーションでは、兵庫医科大学病院肝胆膵科との連携で、在宅肝がん患者を対象として、本学教員と新規採用管理栄養士が包括的な栄養サポートを行うとともに、特徴的な症例をテキスト作成用にまとめた。

(2) 在宅医療人材教育プログラム開発

- 1) 研究代表者が委員長である日本臨床栄養学会研修企画委員会と連携し、若手医師が、がん患者の栄養学的特徴や臨床栄養の基本的知識を習得するための「臨床栄養スタートアップ講座」の開発を行った。具体的には、11月30日(日)に「臨床栄養スタートアップ講座」を開催し、医師、管理栄養士、薬剤師など71名が参加した。内容は、①臨床栄養のABC、②がんと栄養の基本知識の2講義、がん研究所がん生物部長の原英二先生による「肥満とがん：腸内細菌と細胞老化の関与について」と題する特別講演、広域大学連携事業でのノウハウを活かした在宅がん患者症例に関するグループワークをそれぞれ行った。今回の成果をもとに、今後の教育プログラム開発の推進を図る。
- 2) 日本臨床栄養学会と連携し、当該学会内に「がん栄養部会」を新設し、「在宅がん栄養講座」の内容を協議した。また、研究代表者が平成28年度第38回日本臨床栄養学会総会の大会長に選出された。この結果、同総会で、がんと栄養に関する教育プログラムの開催が可能になり、本研究事業を全国的に推進できる。
- 3) 全国在宅訪問栄養食事指導学会と連携し、在宅管理栄養士のがんと栄養に関する教育プログラムの講師や内容について協議した。

2. 前年度までの研究成果

26年度採択

3. 研究成果の意義及び今後の発展性

- (1) 本研究成果の意義・発展性の一つは、在宅がん患者に対する包括的な栄養サポートの事例をもとにしたテキストを、全国的な在宅医療福祉人材育成やスキルアップに活用できることである。
- (2) 研究代表者が委員長の日本臨床栄養学会の研修企画委員会と連携し、がんと栄養を含む臨床栄養の基本的知識を若手医師に習得させることが可能になる。
- (3) また、日本臨床栄養学会の認定臨床栄養医資格認定研修会や全国在宅訪問栄養食事指導学会の在宅訪問管理栄養士認定制度での研修会で、がんと栄養に関する講座を協同開発することにより、在宅医療に関わる医療福祉人材に対するブラッシュアップ教育が可能になる。

- (4) 栄養障害を有する在宅がん患者では、免疫力低下からがんの再発や合併症を併発するリスクが高く、医療歳費の増加に繋がる。しかし、本研究が構築する包括的な栄養サポートシステムによる在宅がん患者の栄養改善は、これらのリスクを軽減するため、「医療費の削減」に貢献すると思われる。
- (5) 平成 18 年度からの行政との連携による支援活動実績をもとに、ひとり暮らし高齢がん患者に対する栄養サポートが効率的に実施できるため、「高齢者の自立支援」に貢献できる。

4. 倫理面への配慮

研究実施にあたっては、平成 17 年 4 月から施行された、「個人情報保護法」及び平成 27 年 4 月 1 日施行予定の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守する。すなわち、測定やアンケート調査結果資料等の提供者、その家族・血縁者その他関係者の人権および利益の保護の取り扱いや安全性については最大限に配慮を行う。研究の意義、目的、危険性の有無について文書及び口頭で十分に説明し、インフォームド・コンセントをすべての被験者から取得する。また、いったん同意した場合でもいつでも同意を撤回できること、その場合も不利益がないことを説明する。資料の保存と将来に渡って資料を使用すること、共同研究施設への送付も行うこと、連結可能匿名化を実施することを盛り込んだ研究計画書を当該研究機関（武庫川女子大学）研究倫理委員会の承認を既に得た研究に包括される研究として実施する。

5. 発表論文

- 1) Yamada E, Fukuo K, et al: Association of pulse pressure with serum TNF- α and neutrophil count in the elderly. J Diabetes Res. 印刷中, 2014
- 2) Uchida Y, Fukuo K, et al: Low hemoglobin levels contribute to low grip strength independent of low-grade inflammation in Japanese elderly women. Asia Pac J Clin Nutr. 印刷中, 2014
- 3) 上田・西脇由美子, 福尾恵介ら: 若年女性におけるサーチュイン (SIRT1) 遺伝子多型と生活習慣病関連指標と血清 PAI-1 濃度との関係, 日本臨床栄養学会雑誌, 36 巻 119-123, 2014
- 4) Terazawa-Watanabe M, Fukuo K, et al: Association of adiponectin with serum preheparin lipoprotein lipase mass in women independent of fat mass and distribution, insulin resistance, and inflammation. Metab Syndr Relat Disord. 12(8): 416-21, 2014
- 5) Tsuboi A, Fukuo K, et al: Serum copper, zinc and risk factors for cardiovascular disease in community-living Japanese elderly women. Asia Pac J Clin Nutr. 23(2) 239-45, 2014

6. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③所属研究機関及び現在の専門 (研究実施場所)	④所属研究 機関におけ る職名
福尾恵介	研究総括	武庫川女子大学・栄養科学研究 所・老年医学(武庫川女子大学, 地 域, 日本臨床栄養学会)	教授・研究 所長
佐古田三郎	外来化学療法がん患者 栄養支援システムの開 発・テキスト作成	国立病院機構刀根山病院・神経内 科学(刀根山病院臨床研究部)	病院長
難波光義	肝がん発症予防栄養支 援システムの開発・テ キスト作成	兵庫医科大学糖尿病科・糖尿病学 (兵庫医科大学、武庫川女子大学)	主任教授 病院長
佐藤真一	がん患者の心理評価・ サポートシステム開 発・テキスト作成	大阪大学・人間科学研究科・人間 科学(大阪大学、武庫川女子大学)	教授
倭 英司	高齢がん患者の栄養支 援システムの開発・テ キスト作成	武庫川女子大学・内科学(武庫川 女子大学、刀根山病院)	教授
鞍田三貴	退院後がん患者栄養支 援システムの開発・テ キスト作成	武庫川女子大学・臨床栄養学(栄 養サポートステーション)	准教授
長谷川裕紀	臨床栄養スタートアッ プ講座教育プログラム 開発	武庫川女子大学・医用生体工学(武 庫川女子大学)	講師
谷崎典子	臨床栄養スタートアッ プ講座教育プログラム 開発	武庫川女子大学・栄養科学研究 所・臨床栄養学(武庫川女子大学)	助手
前田佳予子	全国在宅訪問栄養食事 指導学会セミナー企画	武庫川女子大学・栄養教育学(全 国在宅訪問栄養食事指導学会)	教授